

2023年3月期第2四半期 決算説明資料

2022年11月9日
白銅株式会社

目次

- 1. 2023年3月期第2四半期 決算内容 P 2**
- 2. 2023年3月期 業績予想 P17**
- 3. 中期経営計画達成へ向けた取り組み P20**

2023年3月期第2四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

31,775百万円
(前年同四半期比+ 23.1 %)

売上総利益

5,402百万円
(前年同四半期比+ 11.5 %)

経常利益

2,359百万円
(前年同四半期比+ 18.4 %)

2023年3月期第2四半期サマリー

売上高

- ・ 前年同四半期比で主力のアルミニウムを中心に全品種が増加
- ・ 7月以降、主力の半導体製造装置業界減速の傾向が見られ、前四半期(4-6月)と比較し売上高は減少

売上総利益

- ・ 販売単価の増加により前年同四半期比で売上総利益が増加
- ・ 棚卸資産影響額が371百万円(益)発生、前年同四半期比112百万円の増益要因

経常利益

- ・ 為替差益が44百万円発生、前年同四半期比55百万円の増益要因

連結損益計算書 (PL) サマリー

単位：百万円

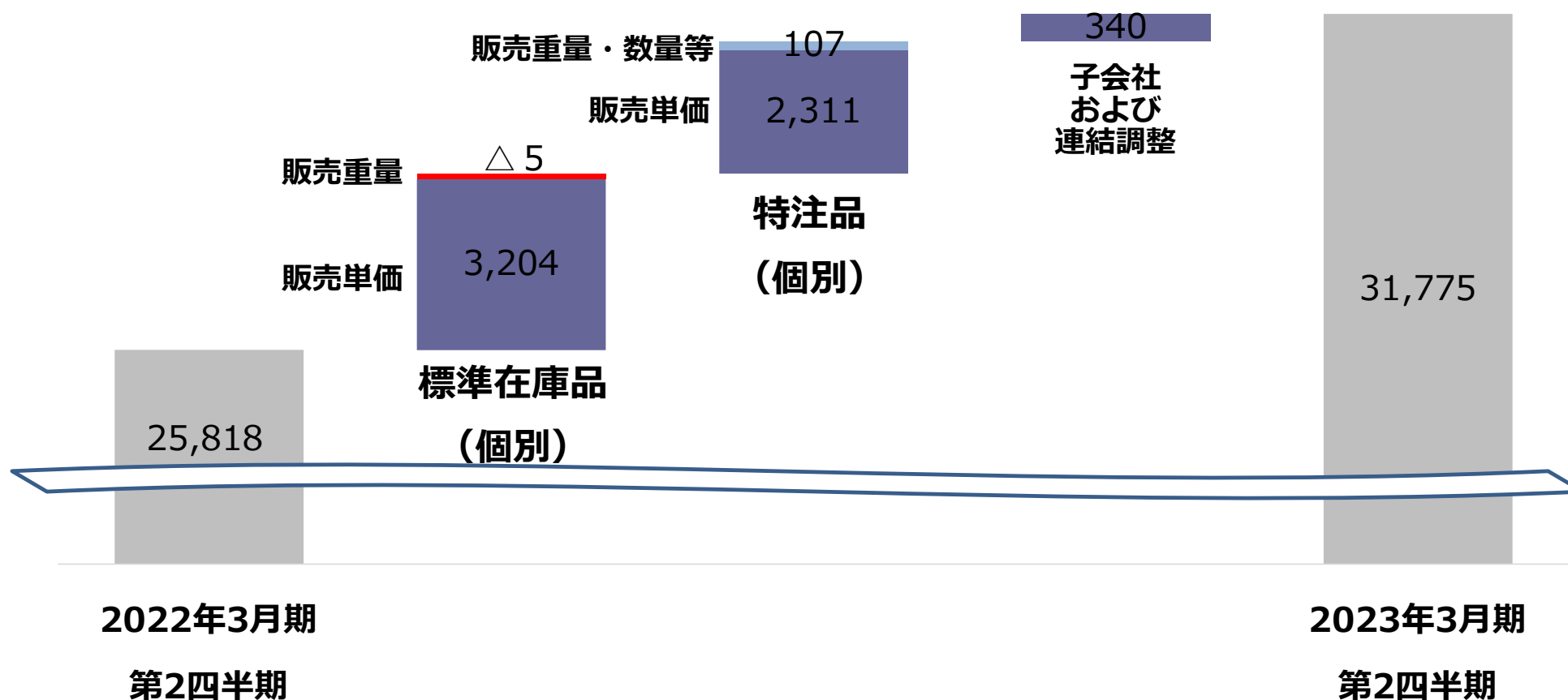
	2022/3期 第2四半期	売上高比	2023/3期 第2四半期	売上高比	前年同四半期 増減率 (差額)
売上高	25,818	-	31,775	-	23.1%
標準在庫品	16,613	64.3%	19,245	60.6%	15.8%
特注品	9,204	35.6%	12,529	39.4%	36.1%
売上総利益	4,847	18.8%	5,402	17.0%	11.5%
営業利益	1,940	7.5%	2,221	7.0%	14.5%
経常利益	1,993	7.7%	2,359	7.4%	18.4%
棚卸資産影響額 (△は損)	259	1.0%	371	1.2%	+112
為替差損益 (△は損)	△11	-	44	0.1%	+55
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	1,745	6.8%	1,944	6.1%	11.4%
親会社に帰属する 四半期純利益	1,355	5.2%	1,643	5.2%	21.2%

売上高の前年同四半期差異要因

販売単価上昇を主因に売上高が増加

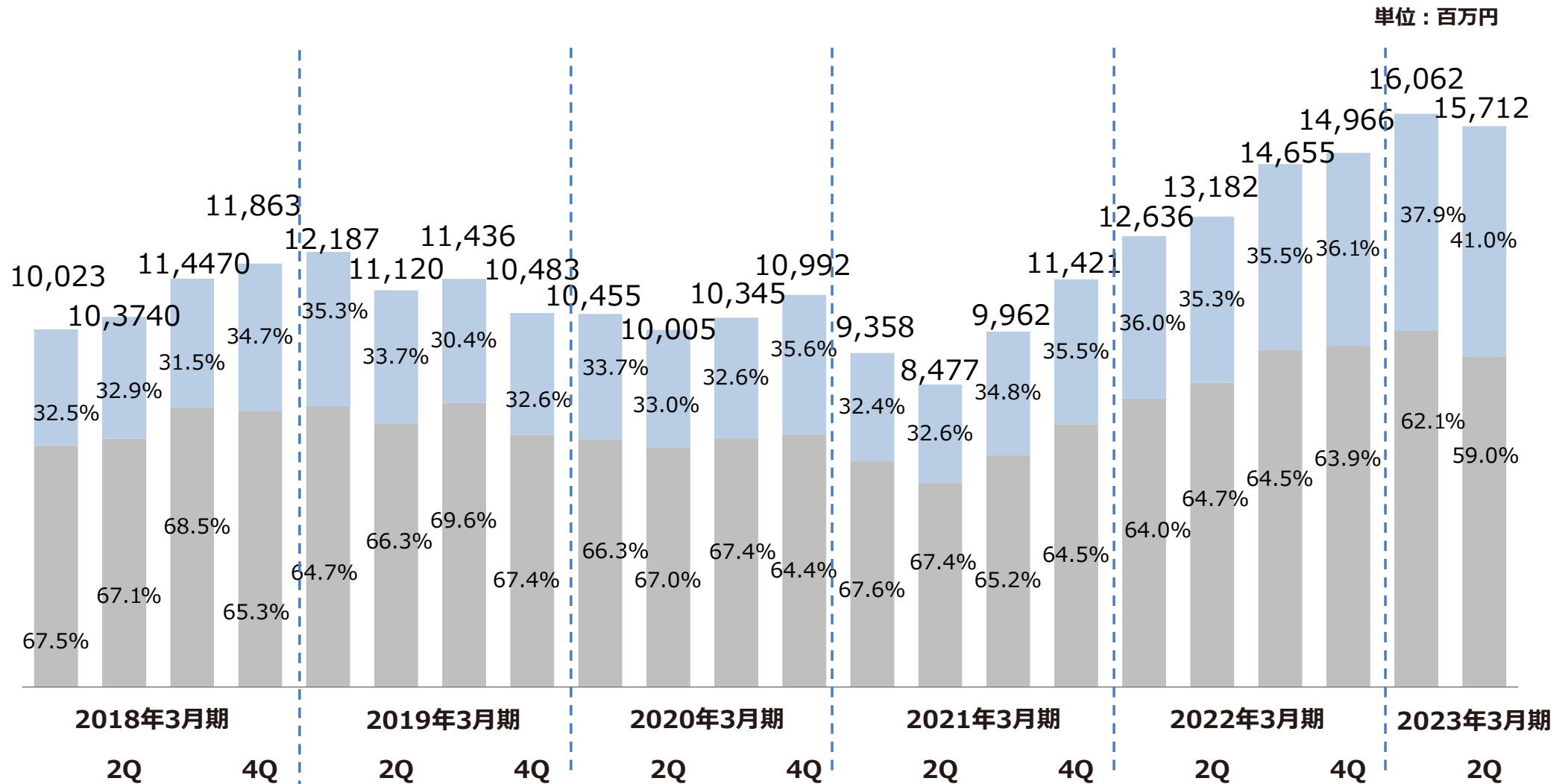
(白銅個別標準在庫品前年同四半期比 販売重量△0% 販売単価+20%)

(単位 百万円)



売上高の四半期毎推移

2023年3月期第2Qは前四半期と比較し需要に減少が見られるも依然として高水準を継続



※ 下段が標準在庫品・上段が特注品の売上高を示す（%は構成比率）

品種別売上高

主力のアルミニウムを中心に全品種で前年同期間比増加

単位：百万円

	2022/3期 2Q	2022/3期 3Q	2022/3期 4Q	2023/3期 1Q	2023/3期 2Q	対前年同期間比 増減率
連結売上高	13,182	14,655	14,967	16,062	15,712	+19.2%
アルミニウム	8,654	9,563	9,905	10,694	10,249	+18.4%
伸銅	1,766	2,033	1,919	2,106	2,010	+13.8%
ステンレス	2,116	2,301	2,385	2,565	2,607	+23.2%
その他	645	756	756	696	845	+31.0%

業種別売上高構成比率（国内）

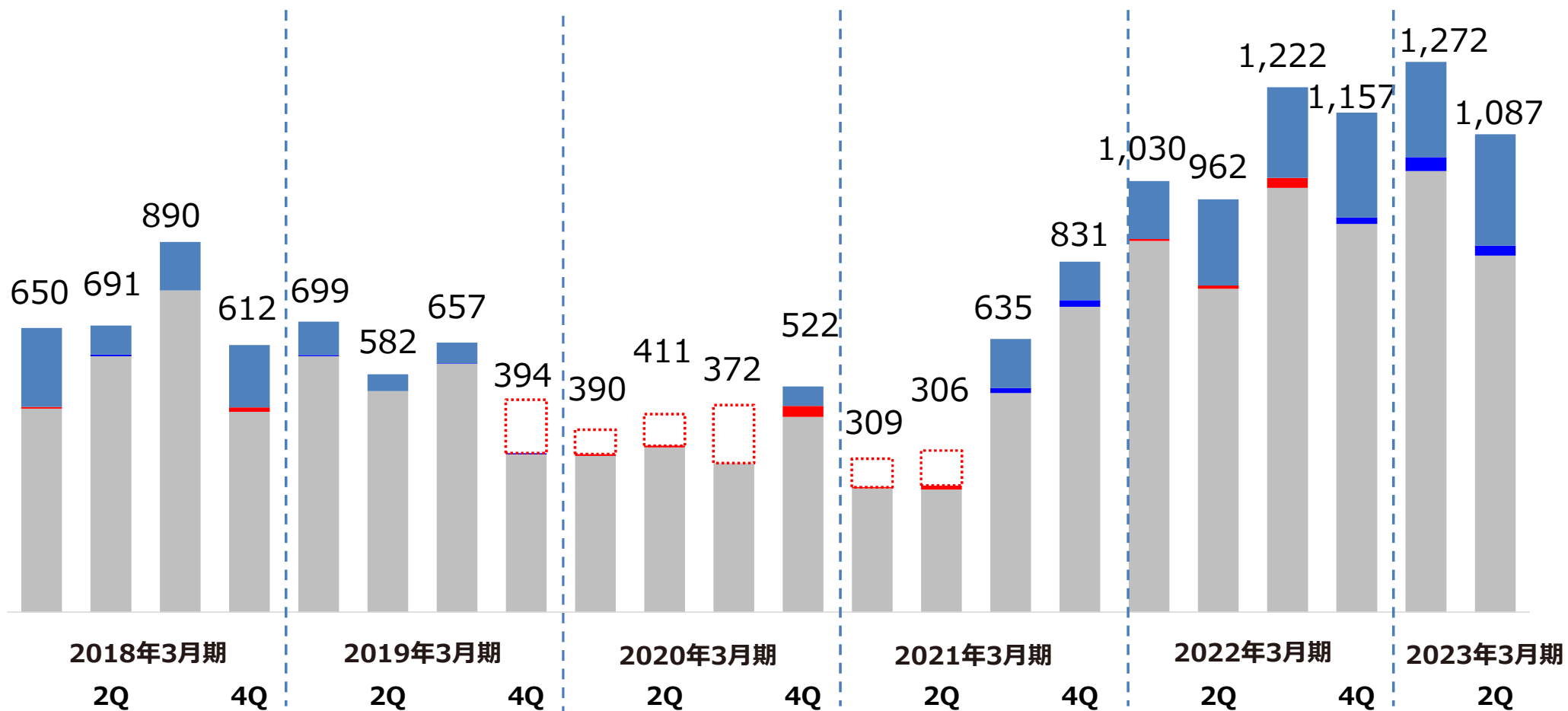
前年同期間と比較し、半導体・FPD製造装置向けの比率が増加し、売上高の拡大に寄与

	2022/3期 2Q	2022/3期 3Q	2022/3期 4Q	2023/3期 1Q	2023/3期 2Q
半導体・FPD製造装置	43.9%	45.9%	47.3%	47.2%	45.0%
その他工作機械	15.5%	15.0%	14.8%	15.0%	15.4%
OA機器	9.5%	8.3%	9.1%	8.6%	7.8%
空圧・油圧機器	6.1%	6.5%	5.9%	6.5%	6.9%
自動（自動二輪）車	4.8%	4.8%	4.6%	4.3%	4.9%
金型	5.0%	4.9%	4.3%	4.1%	4.7%
電子部品	3.8%	3.8%	3.6%	3.7%	4.1%
航空・宇宙関連	2.9%	2.8%	2.8%	3.1%	2.9%
その他	8.5%	8.0%	7.6%	7.5%	8.3%

経常利益の四半期毎推移

2021年3月期第3Q以降上昇し、高水準を継続

単位：百万円



■ 棚卸資産影響額（益）

□ 棚卸資産影響額（損）

■ 為替差益

■ 為替差損

■ 為替差損

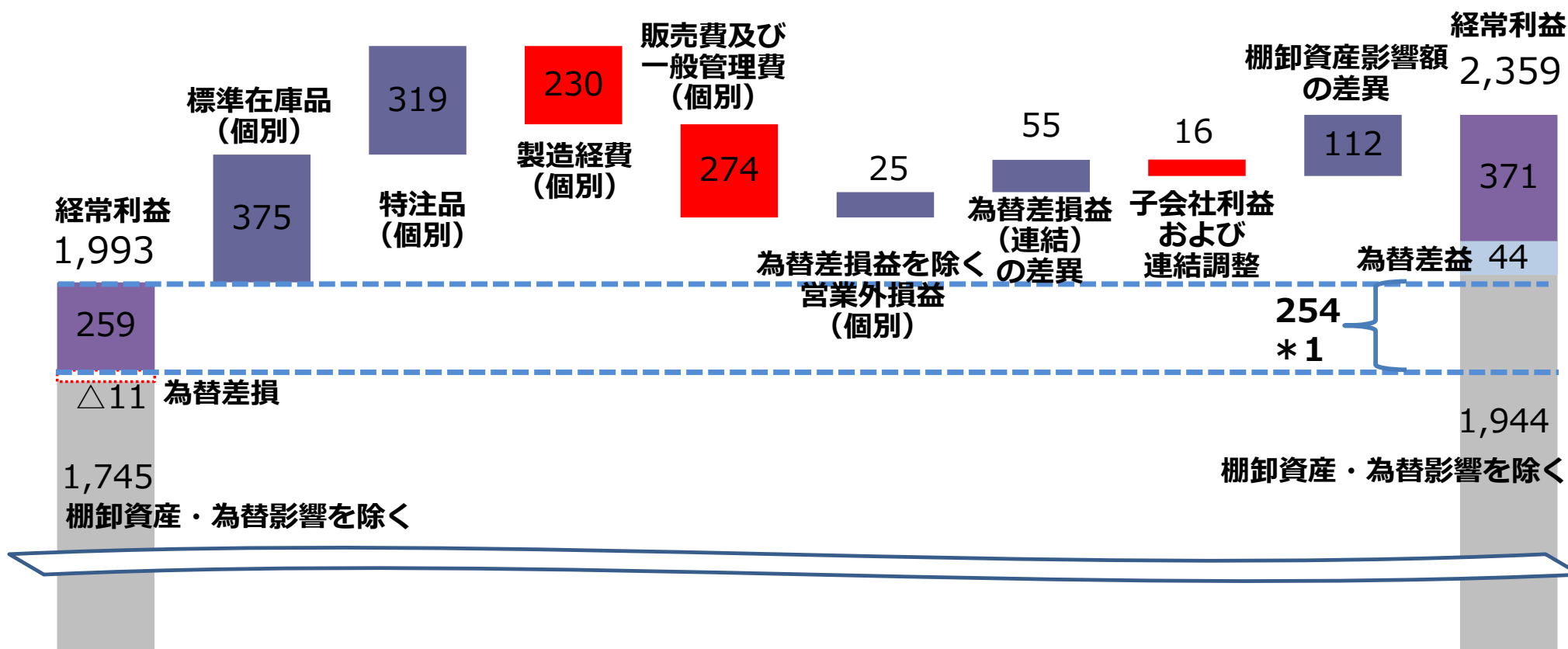
あたらしい、を、素材から。



経常利益の前年同四半期差異要因

販売単価の増加を主因に前年同四半期比で増益、 棚卸資産影響額に加えて為替差益も増益要因

(単位 百万円)



2022年3月期

第2四半期

2023年3月期

第2四半期

* 1 棚卸資産・為替影響を除く経常利益の増減を示す

貸借対照表 (BS)

<貸借対照表(前連結会計年度末比)>

単位：百万円

<前連結会計年度増減>

資産の部	2022年3月末	構成比率	2022年9月末	構成比率	増減
流動資産	33,615	80.5%	35,528	81.3%	1,913
現金及び預金	8,674	20.8%	7,883	18.0%	△791
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	17,010	40.7%	18,175	41.6%	1,164
棚卸資産	7,802	18.7%	9,285	21.2%	1,483
その他流動資産	127	0.3%	184	0.4%	56
固定資産	8,164	19.5%	8,193	18.7%	28
有形固定資産	6,097	14.6%	6,005	13.7%	△92
無形固定資産	509	1.2%	574	1.3%	65
投資その他の資産	1,557	3.7%	1,613	3.7%	55
資産合計	41,780	100.0%	43,722	100.0%	1,941
負債及び純資産の部	2022年3月末	構成比率	2022年9月末	構成比率	増減
流動負債	21,903	52.4%	22,792	52.1%	889
支払手形及び買掛金 (含 電子記録債務)	18,652	44.6%	20,250	46.3%	1,597
未払金・未払費用	1,023	2.4%	945	2.2%	△78
未払法人税等	1,145	2.7%	769	1.8%	△375
その他流動負債	1,081	2.6%	827	1.9%	△253
固定負債	48	0.1%	57	0.1%	9
負債合計	21,951	52.5%	22,850	52.3%	899
純資産	19,829	47.5%	20,871	47.7%	1,042
負債純資産合計	41,780	100.0%	43,722	100.0%	1,941

流動資産+1,913百万円

- 納税・配当金支払による現預金減少
- 売上高増加による受取手形及び売掛金の増加
- 棚卸資産の増加

固定資産+28百万円

- 有形固定資産の減少（減価償却による）
- 無形固定資産の増加
- 投資その他の資産の増加

流動負債+889百万円

- 仕入増加による支払手形及び買掛金の増加
- 法人税支払いによる未払法人税等の減少

固定負債+9百万円

純資産+1,042百万円

キャッシュフロー

棚卸資産の増加、売上債権増加等運転資金増加の影響により、営業CFが前年同四半期比減少

(単位：百万円)

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期	差額
営業活動による キャッシュ・フロー	2,275	211	△2,063
投資活動による キャッシュ・フロー	△467	△290	177
財務活動による キャッシュ・フロー	△657	△759	△101
現金及び現金同等物 に係る換算差額	12	46	33
現金及び現金同等物 の期末残高	7,087	7,883	795

主な内訳

①営業活動によるキャッシュ・フロー

+211百万円

- ・税金等調整前当期純利益 : 2,359百万円
- ・減価償却費 : 406百万円
- ・売上債権の増減額 (△は増加) : △1,119百万円
- ・たな卸資産の増減額 (△は増加) : △1,425百万円
- ・仕入債務の増減額 (△は減少) : 1,563百万円
- ・法人税等の支払額 : △1,081百万円

②投資活動によるキャッシュ・フロー

△290百万円

- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △181百万円
- ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △93百万円

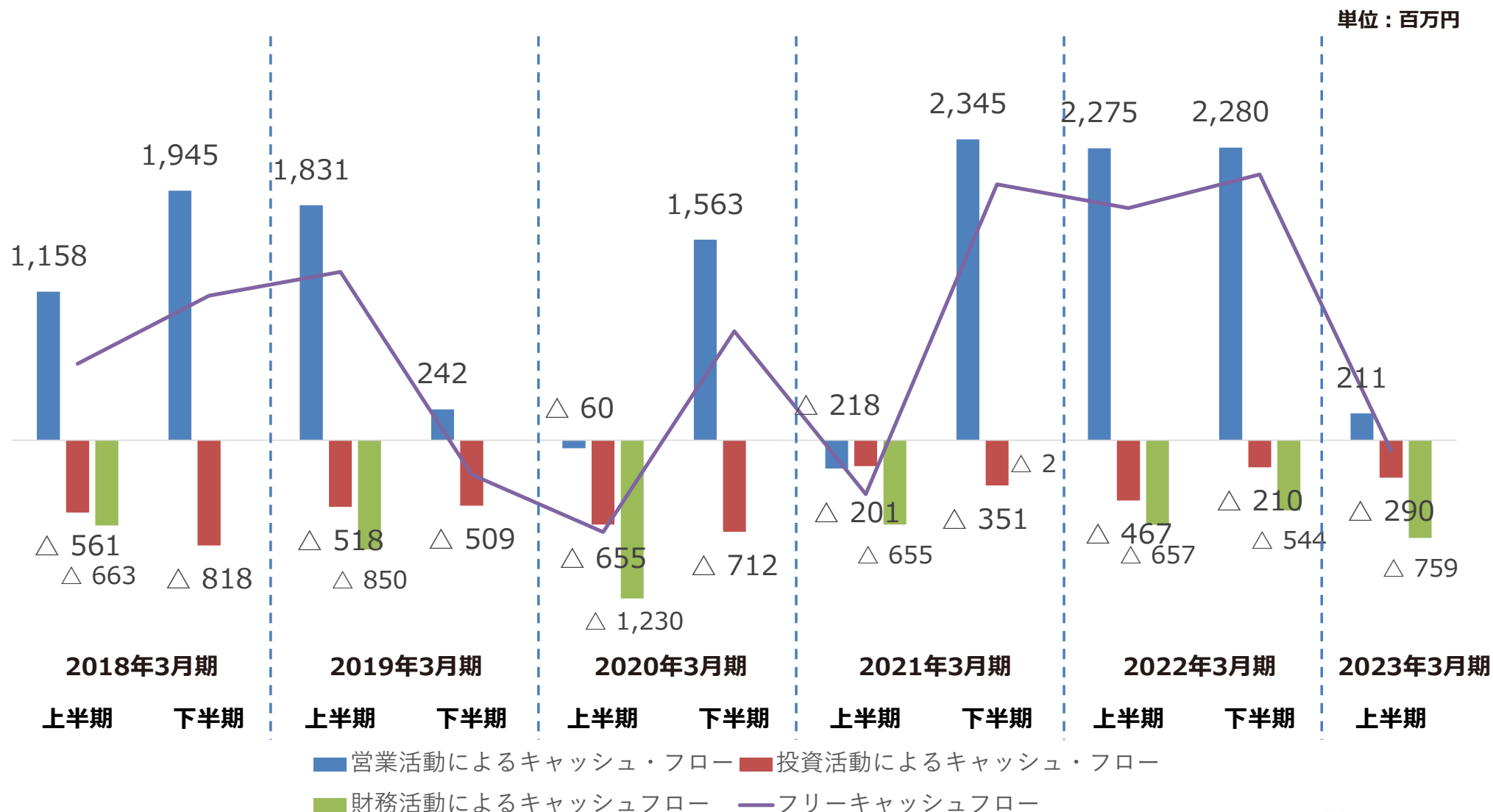
③財務活動によるキャッシュ・フロー

△759百万円

- ・配当金支払による減少 : △759百万円

キャッシュフロー（半期毎の推移）

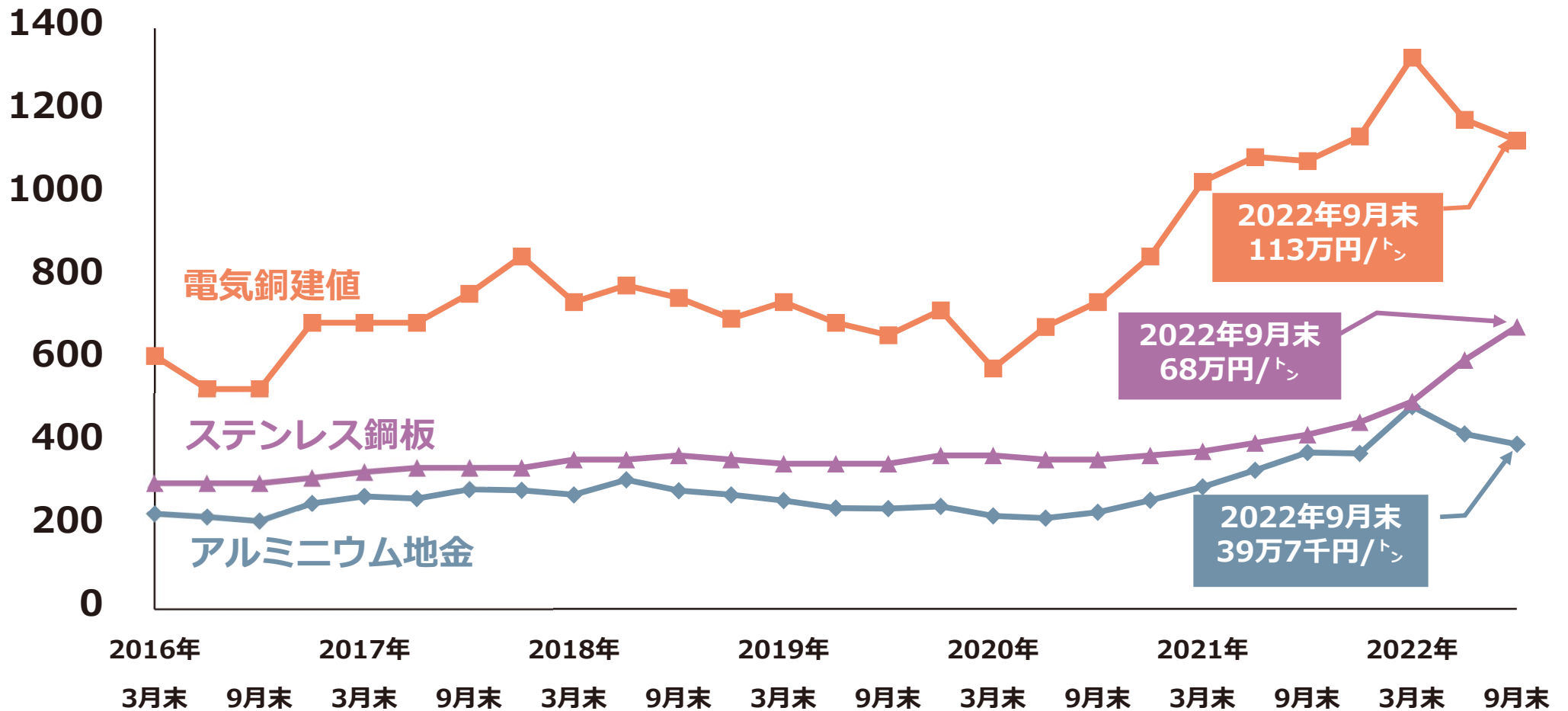
直近5期のキャッシュフローの推移。
2021年3月期の下半期以降営業CFは高水準で推移



事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

上昇を継続していたアルミニウム・伸銅の原材料価格は 2022年6月以降下落の動き

(単位：千円/トン)



電気銅建値：JX金属による算出

ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値

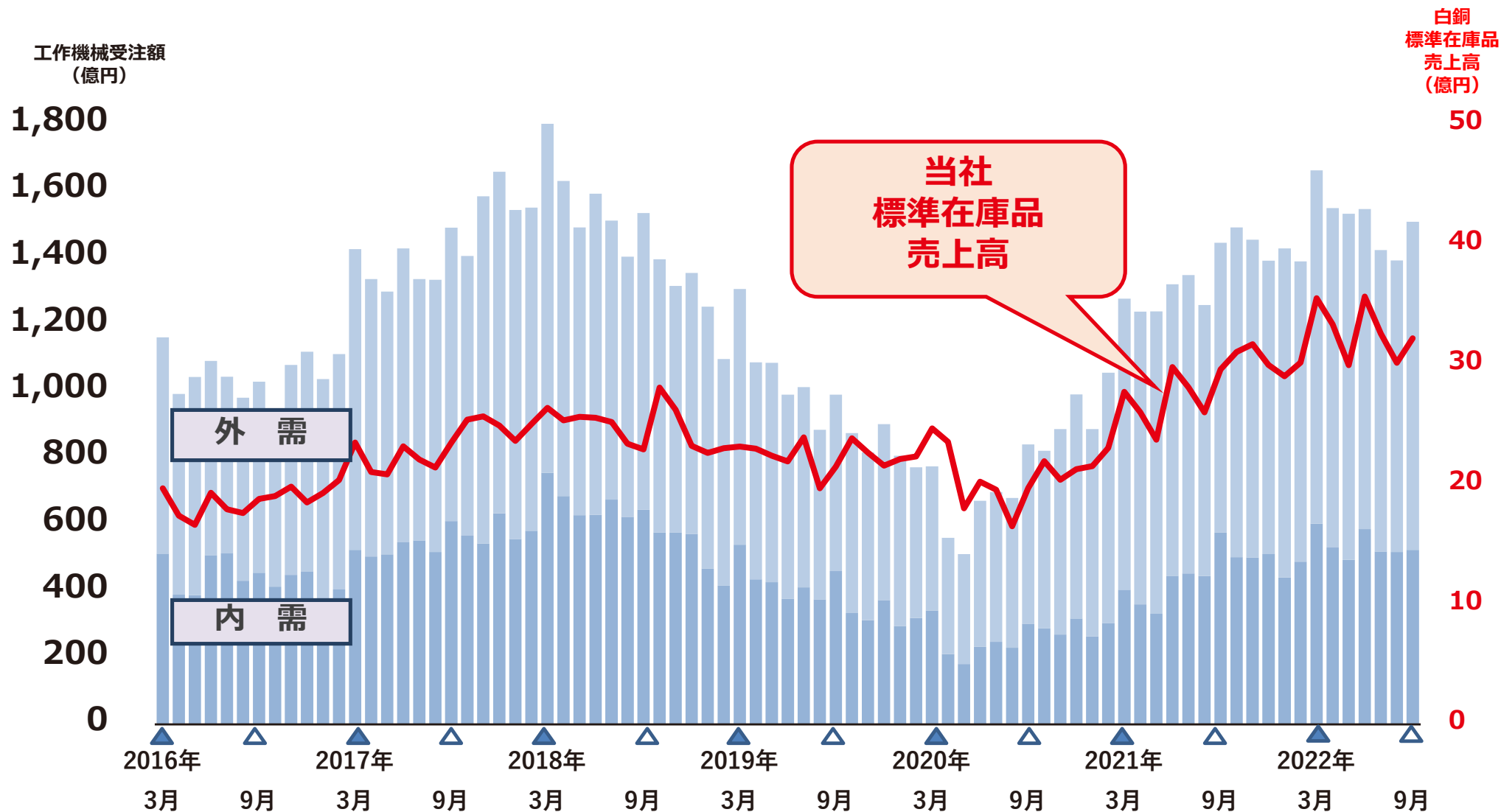
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

あたらしい、を、素材から。



事業環境（2） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

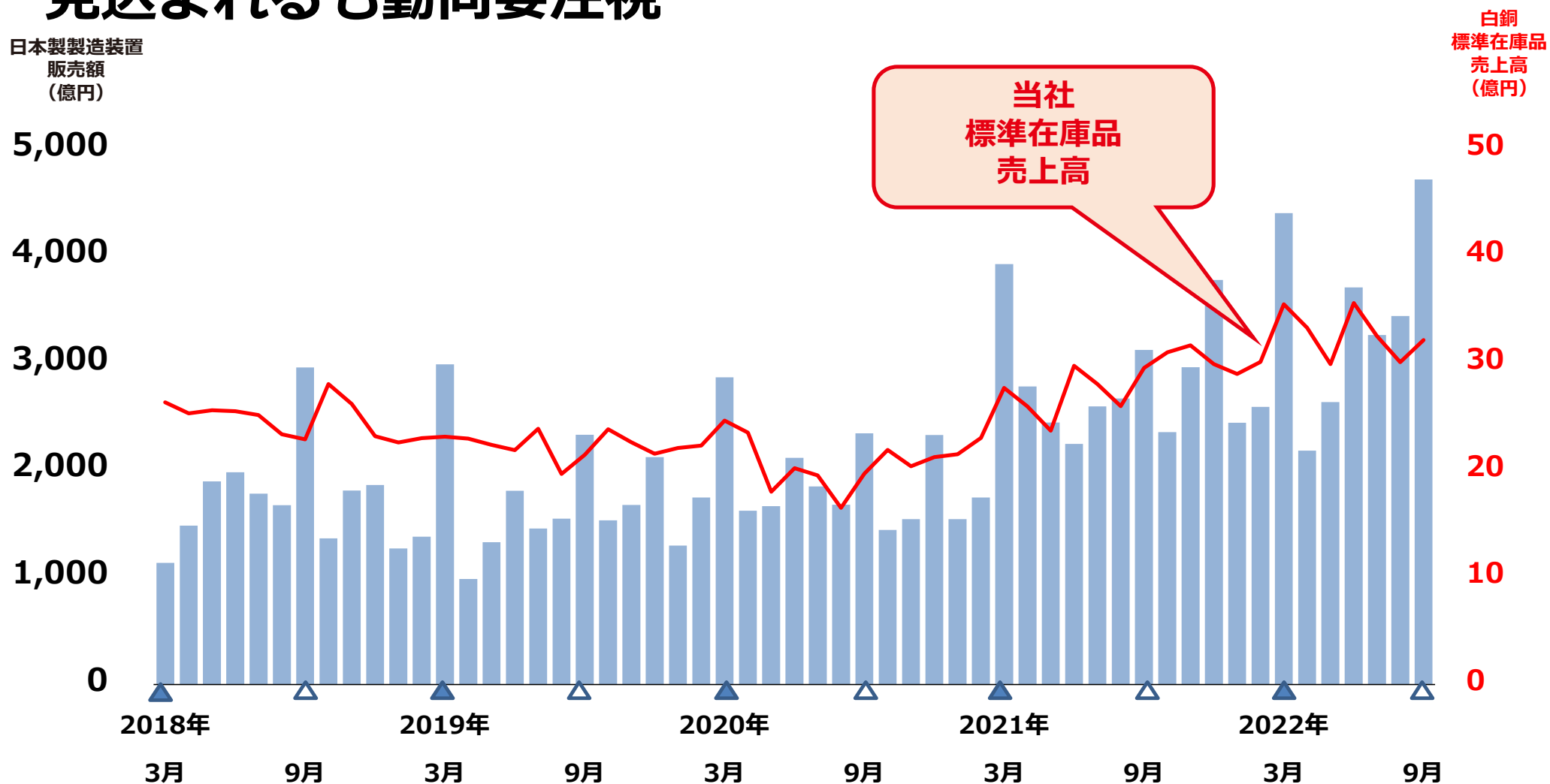
外需を中心に前年同月比高水準が継続



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境（3）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

長期的には5G関連やデータセンター向けの需要拡大が見込まれるも動向要注視



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

2023年3月期 業績予想

2023年3月期 通期連結業績予想

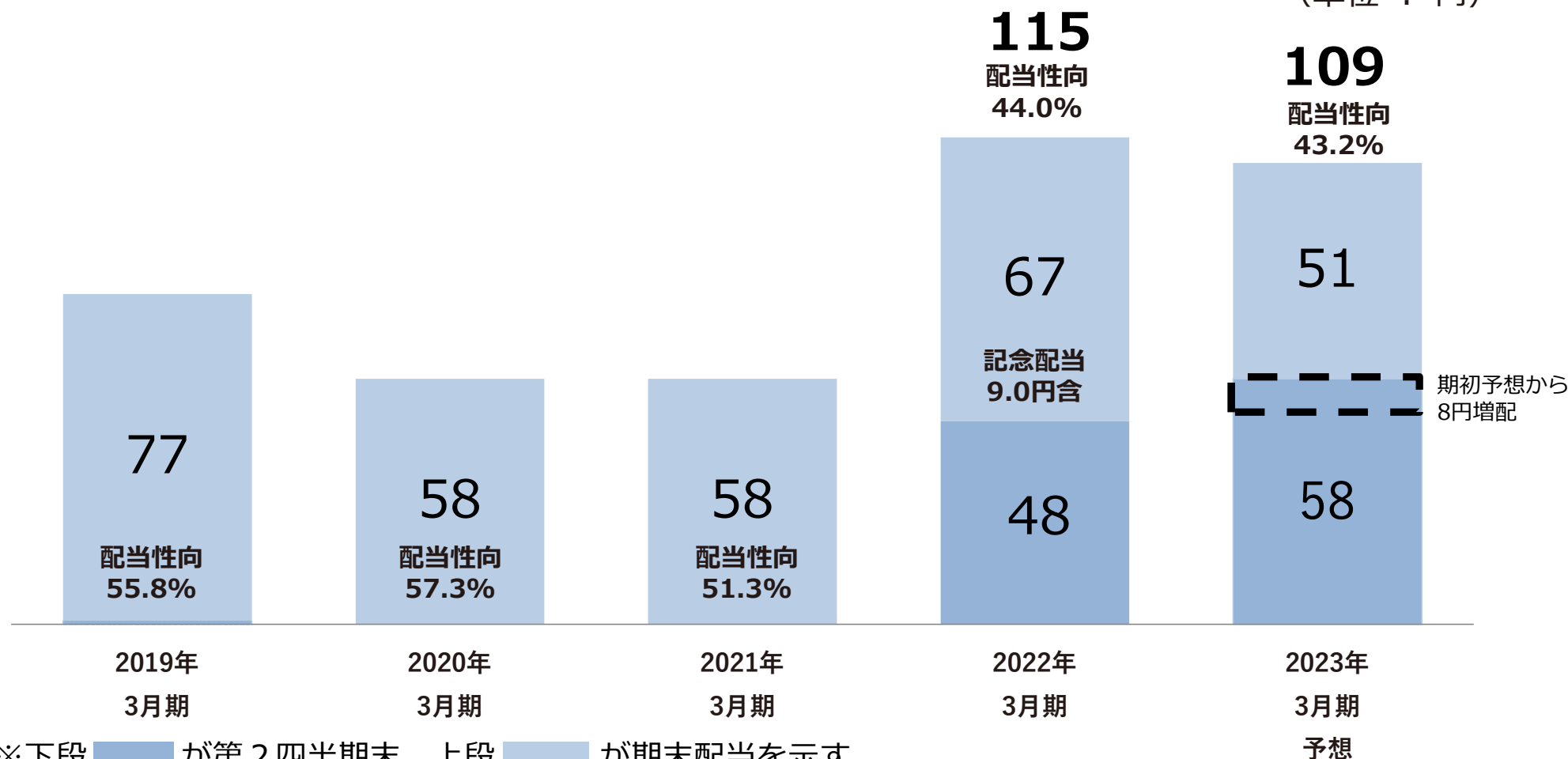
第2四半期時点での進捗は良好も、不透明な市況を勘案し通期予想は据え置き

(百万円)	2022/3期 実績	売上高比	2023/3期 2Q実績	売上高比	2023/3期 通期予想	売上高比	対連結 会計年度 増減率 (差額)	通期予想に 対する 第2四半期 進捗率
売上高	55,441	-	31,775	-	62,100	-	12.0%	51.2%
営業利益	4,256	7.7%	2,221	7.0%	3,970	6.4%	△6.7%	56.0%
経常利益	4,373	7.9%	2,359	7.4%	4,080	6.6%	△6.7%	57.9%
棚卸資産影響額 (△は損)	610	1.1%	371	1.2%	229	0.4%	△239	-
為替差損益 (△は損)	20	0.03%	44	0.1%	44	-	23	-
経常利益 (棚卸資産・為替影響を除く)	3,743	6.8%	1,944	6.1%	3,807	6.1%	1.7%	51.1%
親会社に帰属する 当期純利益	2,964	5.3%	1,643	5.2%	2,860	4.6%	△3.5%	57.5%

配当予想～1株当たり配当金の推移～

第2四半期の業績を受けて、中間配当を期初予想50円を58円に増配、年間配当は109円

(単位：円)



※下段 ■ が第2四半期末、上段 ■ が期末配当を示す。

中期経営計画達成へ向けた取り組み

経営目標・重要財務計画指標・株主還元の目指す水準

経営目標である売上高・経常利益の成長とともに、重要財務計画指標であるROICや営業CFの目標達成と株主還元を目指す

	2022年3月期 実績	2023年3月期 第2四半期実績	2024年3月期 目標	
経営目標	売上高	554 億円	317 億円	718 億円
	経常利益	43 億円	23 億円	54 億円
重要財務指標	ROIC	15 %	※13.6 %	15 %
	営業CF	45 億円	2 億円	47 億円
株主還元	配当性向 (記念配当3.4%を含む)	44.0 %	40.0 %	40.0 %

※上期終了時点の業績予想値を用いて算出した数値

中期経営計画の重点戦略方針

ダントツ戦略をベースに、2024年度までにビジネス進化と経営基盤の強化及びサステナビリティ経営の推進を図る

経営課題と重点戦略方針

ビジネスの進化
による事業成長

コア事業の深化

事業領域の拡大

1

白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

2

加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化

3

SCM改革による調達・供給能力の向上

4

成長領域の拡大・営業強化

5

海外事業の拡大

経営基盤の強化

6

企業価値向上のためのデジタル基盤強化

7

人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上

8

戦略実現のためのPDCA管理強化

9

ガバナンスの強化

サステナビリティ経営の推進

*詳細は22/5/26開示の「中期経営計画」をご参照ください

重点戦略ハイライト

白銅ネットサービスの
進化
(品目サイズの拡充)

成長領域の拡大
・営業強化
(全社JISQ9100取得)

海外事業の拡大
(海外営業部の創設)

2023年3月期第2四半期サマリー

白銅ネットサービス取扱アイテム数増加

- ・ ネット注文可能なアイテム数を増加。他社在庫品は約27,300（3月末時点）→約34,300（9月末時点）と約7,000アイテム増加。

航空宇宙領域への進出

- ・ 2022年7月に航空宇宙産業の品質マネジメントシステム「JISQ9100」認証範囲を2工場（神奈川工場および滋賀工場）から全社に拡大。

海外事業の拡大

- ・ 2022年4月に海外営業部を創設。海外新規市場への展開を強化
- ・ ベトナムで半導体製造装置向けアルミ材の販売が好調。上海ロックダウンの影響による売上減をカバー。

ビジネスの進化による事業成長

コア事業の深化では、白銅ネットサービスの機能向上と工場供給能力強化を推進
事業領域の拡大では、「航空・宇宙領域」「半導体領域」「自動車領域」の拡大を展開中

重点戦略方針		事業戦略施策	2023年3月期第2四半期 取組状況	
ビジネスの進化による事業成長	コア事業の深化	① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上 ※重点戦略施策(1)	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品ラインナップの増強 ● 白銅ネットサービスを流通業者に展開 ● ネットサービスの利益率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他社在庫品・副資材の拡充による取扱アイテム数を拡大（2022年9月末時点で39,700アイテムが利用可能） ✓ 環境対策商品を取り扱う仕入先のピックアップ ✓ 白銅ネットサービスを流通業者用のネットサービスに改修し、流通業者の顧客に展開 ✓ 6面フライスなど高利益率商品への提案強化
		② 加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 加工会社のネットワーク化 ● 自社の加工領域の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他社サービスとの白銅ネットサービスのシステム連携を実施 ✓ サービス拡充に繋がる加工機能の調査を実施
		③ SCM改革による調達・供給能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 発注・在庫管理の効率化 ● 配送効率化および工場内 / 工場間供給能力の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 購買管理システムを開発。7月より新システム開始 ✓ 滋賀工場に自動加工機を導入し、6月末より本格稼働
			<ul style="list-style-type: none"> ● 既存会社のM&Aや新規工場増設による供給能力拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後の需要動向から適正供給能力を検討
		事業領域の拡大	④ 成長領域の拡大・営業強化 ※重点戦略施策(2)	<ul style="list-style-type: none"> ● 航空・宇宙領域の拡大 ● 半導体領域の拡大 ● 自動車領域の拡大
	⑤ 海外事業の拡大 ※重点戦略施策(3)		<ul style="list-style-type: none"> ● 既存市場 (中国・タイ・ベトナム) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 海外営業部を創設し、販売先の新規開拓活動を実施 ✓ ベトナム出資会社への在庫品目拡充を検討 ✓ タイでのネットサービスの構築を実施（11月完成予定）
			<ul style="list-style-type: none"> ● 新規市場 (韓国・台湾・米国) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 米国企業への出資協議を実施 ✓ 台湾・ベトナムについても出資先を選定中

経営基盤の強化

経営基盤の強化では、中期経営計画を達成するために、デジタル基盤や人材およびガバナンスの強化などの取組みを推進

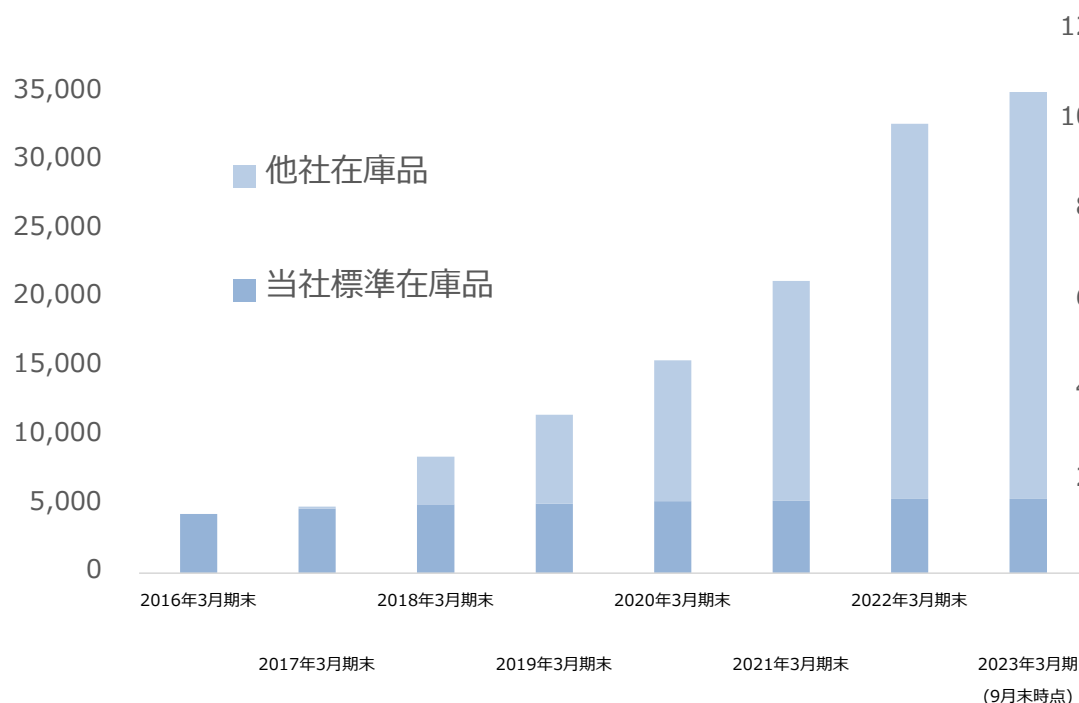
重点戦略方針	事業戦略施策	2023年3月期第2四半期 取組状況
6 企業価値向上のための デジタル基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たなデジタル技術の導入による業務プロセスの変革 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「DX推進プロジェクト」を発足し、業務のデジタル化に向けた取り組みを推進中 ✓ AI導入による業務効率化へ向けた情報収集を実施
	<ul style="list-style-type: none"> ● 知財戦略の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 白銅Eコマースのベースとなるシステムが構築完了 ✓ 知財を活用した事業展開方法を検討
7 人材の拡充と既存人材の レベルアップ、エンゲージメント向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略遂行に必要な人材の拡充とレベルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 年間採用計画を更新。提携する人材紹介会社の数を増やし、積極的なリクルート活動を実施している ✓ 新たなスキルマップを作成し個人の不足スキルに基づいた研修を実施
	<ul style="list-style-type: none"> ● 従業員満足度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ESG/SDGs経営委員会における取組テーマの一つとして掲げ、働き方改革による従業員満足度向上のための施策を検討中
8 戦略実現のための PDCA管理強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 中期経営計画進捗管理の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期事業計画説明会や四半期毎の決算説明会の実施など、ステークホルダーへ向けた開示を実施
9 ガバナンスの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 中長期の企業価値向上のためのガバナンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 経営会議メンバーを核とする執行役員制度について検討中 ✓ コンプライアンス理解度チェックや情報セキュリティ研修などを実施

重点戦略方針(1)

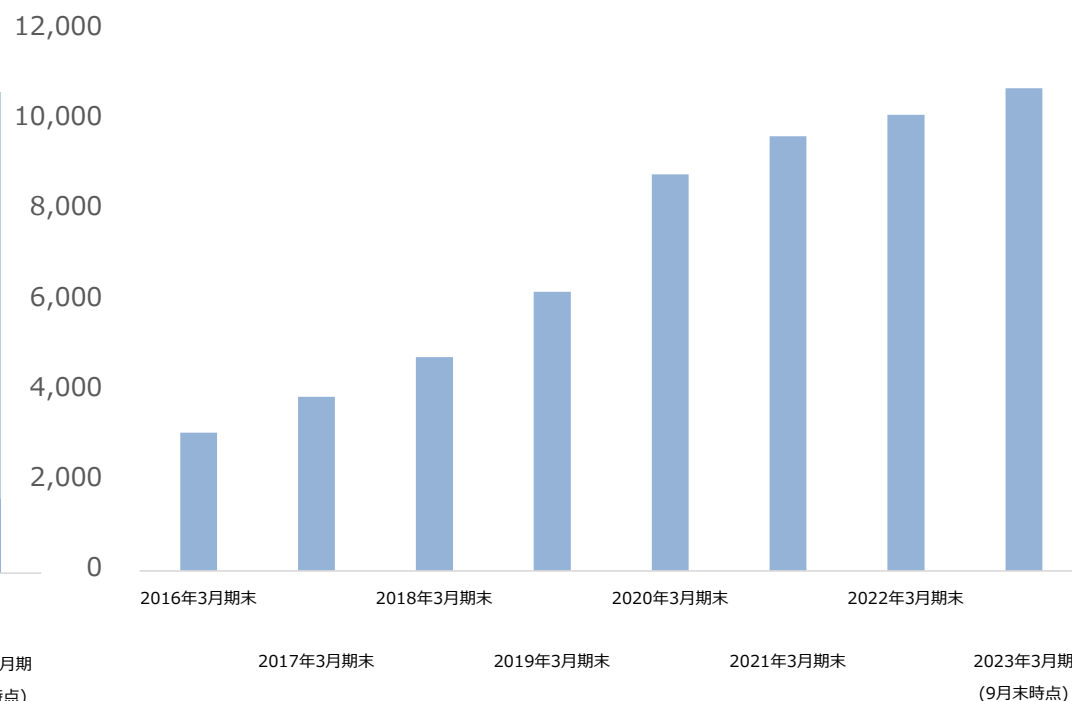
(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

- ・ 他社在庫品を中心に取扱アイテムを拡充、39,700アイテムがご利用可能。なかでも、副資材の取り扱いを大幅に増加中（9月末時点で約19,000アイテム）
- ・ 流通業者のその先のお客様ご利用可能なCSネットサービスを展開中

【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移（累計）】



※CSネットサービスの登録社数を含む

あたらしい、を、素材から。



重点戦略方針(2)

(2) 成長領域（半導体・航空宇宙・自動車）の拡大・営業強化

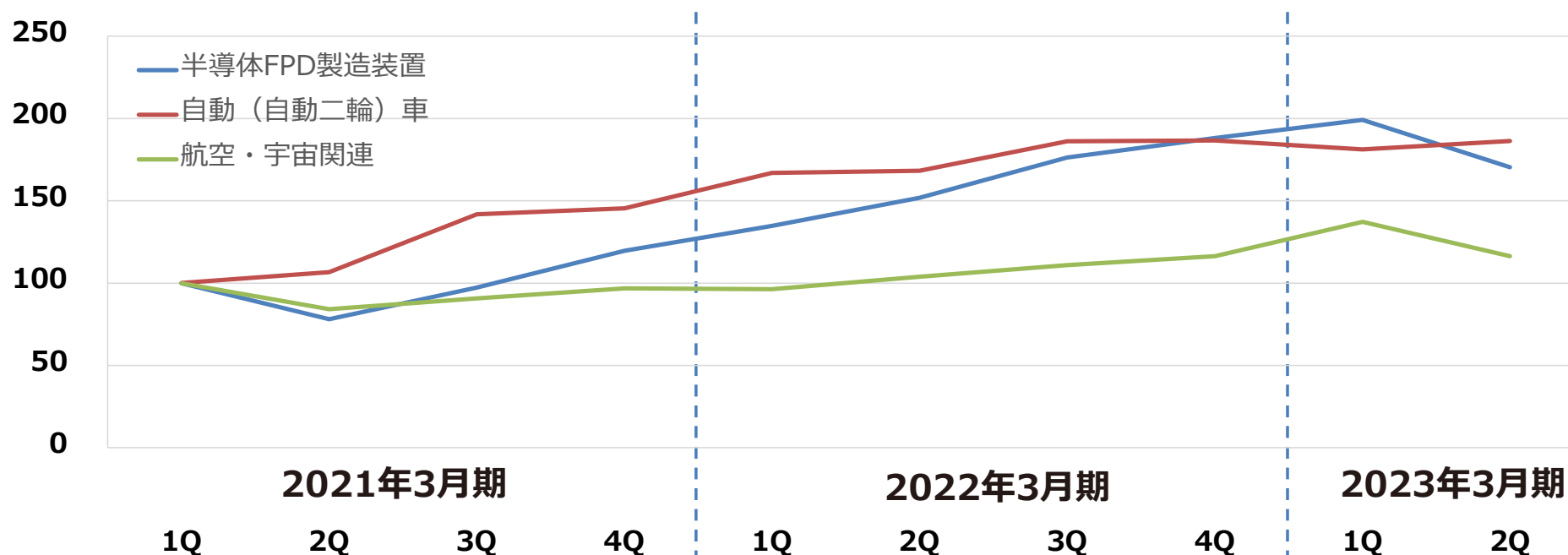
(2)-1 航空・宇宙領域の拡大

JISQ9100の認証取得範囲を全社に拡大（7月22日）

(2)-2 自動車領域の拡大

3Dプリンターをきっかけに口座を開設した顧客に対し白銅の他の機能を展開する等相乗効果を狙った、専門部署による金型・自動車業界への拡販

【成長領域の売上高指数の四半期推移】



※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

重点戦略方針(3)

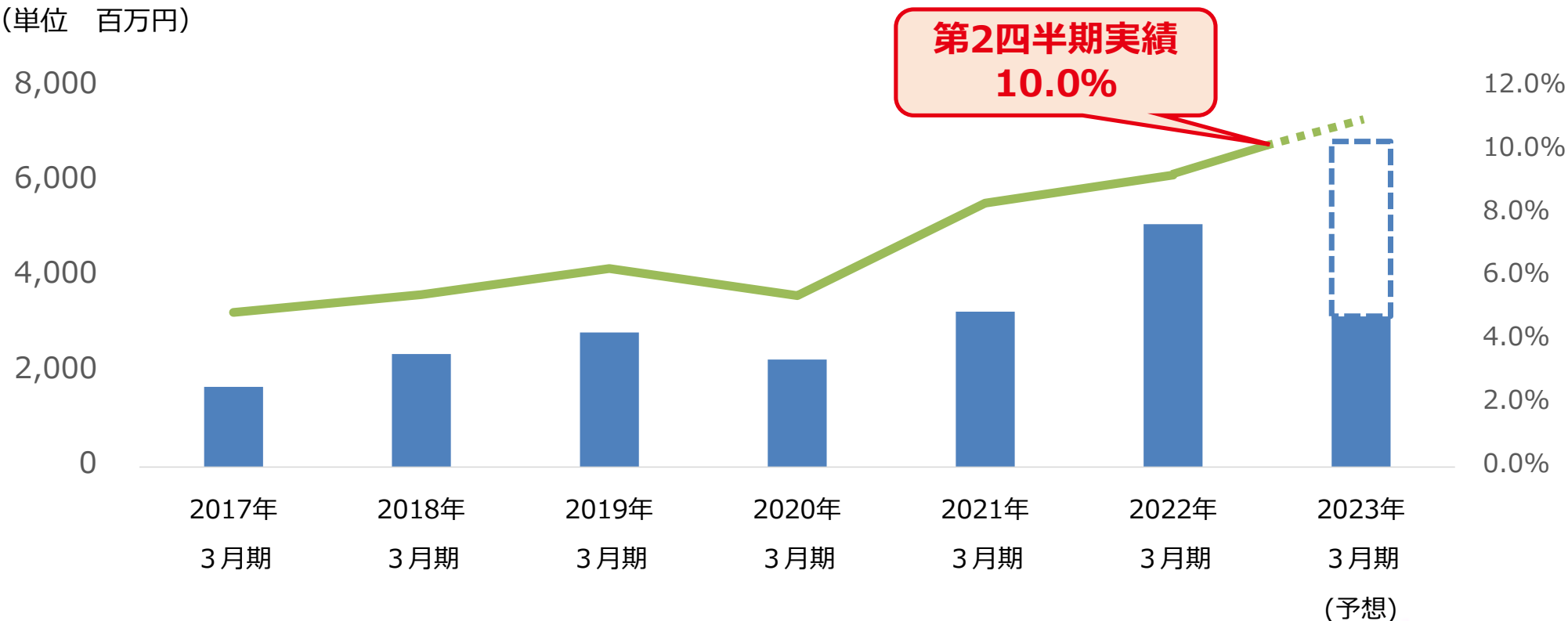
(3) 海外事業の拡大

- ◆ 海外子会社の上海白銅精密材料有限公司・Hakudo(Thailand)Co., Ltdは 前年同四半期比で売上高が増加
- ◆ ベトナム向けが好調継続

2025年3月期には白銅グループ全体に占める海外事業の売上高12%を目指す

【海外事業の売上高と海外売上高比率の推移】

(単位 百万円)



※海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額

サステナビリティ経営の推進（1/2）

ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現状までの取組み状況を下表に記載。取組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2022年度上期取組状況
1.環境負荷軽減・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2020年度比で①2030年度までに42%削減、②2050年度までにカーボンニュートラル達成に向け、2025年3月までの具体的な削減策に着手する	● CO ₂ 排出量	✓ 太陽光発電などによるCO ₂ 排出量削減施策を検討
	製造効率の改善	配送効率改善・産業廃棄物削減・スクラップ率低下などにより、天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献を実現する	● 消費電力量 ● 運賃逓減率 ● 廃棄物金額 ※いずれも出荷重量当たりの数値	✓ コンサルティング会社を入れ、配送効率改善活動を実施
	オフィスパーペーレス化の推進	資源の無駄を排除し、リサイクル化を行うことで、コスト削減を行うとともに、森林保護等自然環境保護に貢献する	● オフィス印刷費用	✓ 取引先のWEB請求書切り替えキャンペーン実施
2.責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	環境負荷の少ない商品（ECO商品等）を安定供給することで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● ECO商品販売重量	✓ ECO商品チラシを作成し展示会で配布
	グリーン調達の促進	白銅独自のグリーン調達ガイドラインを、サプライヤーに遵守協力頂くことで、環境負荷に配慮した経営を行うことで社会貢献を行う	● グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数 ● グリーン調達率	✓ 各取引先と順次覚書の取り交わしを実施
	サプライヤーとの関係強化	サプライヤーと協力し、CO ₂ 削減に配慮した施策を行うことで、サプライチェーン全体におけるCO ₂ 削減を促進することで社会貢献を行う	● グリーンアルミ調達先発掘 ● リサイクルアルミ調達先発掘	✓ グリーンアルミ等の供給先候補をリストアップ
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を行うことで社会貢献する	● 自社における人権ポリシーの策定	✓ 人権デューデリジェンスに関する取組内容の調査

※1 2022年度～2024年度の3カ年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値は非開示）

サステナビリティ経営の推進 (2/2)

マテリアリティ	取組テーマ	2025年3月期までの活動目標	2025年3月期までのKPI ※1	2022年度上期取組状況
3.社会への取り組み	次世代への貢献	日本のものづくりの発展や人材育成を支援することで、次世代の技術の発展や人材育成に貢献する	● 産学協働案件数	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学研究の展示会に訪問。協働可能な新規案件を模索 ✓ 再生可能エネルギー関連の研究開発を行う大学と連携し、当社国内工場への試作機設置を検討
	社会への貢献	持続可能な社会への貢献を行うことで、従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業になる	● 地域社会、団体への寄付額	✓ 寄附型自動販売機を社内に設置
4.人材への投資	従業員満足度向上	従業員満足度の向上により、従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションを高め、社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ● 離職率 ● 有給取得率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 妊娠・出産等が理由による退職を防止するための子育て支援課の設立を検討 ✓ 福利厚生充実のための素案の作成
	ダイバーシティの促進	多様な人材を登用、活用することで組織の生産性や競争力を高める	● 女性従業員比率（管理職・従業員）	✓ 女性管理職育成研修の実施検討
	社員教育の拡充	業務上で必要な知識・スキルの提供。また知識やスキルを身に付ける為の機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人当たり教育費用 ● 研修受講比率 	✓ 個人の不足スキルに基づいた研修の実施
5.コーポレートガバナンス	違反ゼロ	ゼロ・トーランスを目指し、教育を実施する	● コンプライアンス違反ゼロ	✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	以下ポリシー等の遵守 <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーポリシー ・コーポレートガバナンス基本方針 ・サステナビリティ基本方針 ・ディスクロージャー基本方針 	● 左記ポリシーの対応状況確認	✓ 情報セキュリティ勉強会の実施
	事業リスク・災害への対応強化	事業リスク評価とBCP見直しを徹底。また、災害が発生しても訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みを作る	● リスク評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 備蓄品の棚卸及び補充の実施

※1 2022年度～2024年度の3カ年間の社内におけるKPI（現状は具体的数値は非開示）

■本資料における注意事項

この資料には、2022年11月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

白銅株式会社 経営企画課

メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp

ホームページ www.hakudo.co.jp